

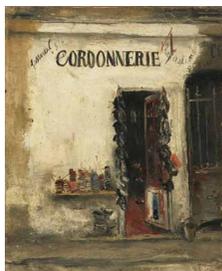
開館1周年記念特別展

No.1

## 佐伯祐三 — 自画像としての風景

2023年4月15日(土) - 6月25日(日)  
会場 | 5階展示室

国内最大級の佐伯祐三コレクションを誇る当館で、待望の佐伯祐三展を開催します。大阪、東京、パリの街に生き、短くも鮮烈な生涯を終えた画家、佐伯祐三(1898-1928)が描いた3つの街に注目し、初出品や画家の代表作を含む約140点を一堂に展覧します。



佐伯祐三《コルドヌリ(靴履)》1925年  
石橋財団アーティゾン美術館蔵

開館1周年記念展

No.2

## デザインに恋したアート ♡アートに嫉妬したデザイン

2023年4月15日(土) - 6月18日(日)  
会場 | 4階展示室

戦後、まだ馴染みのなかったデザインという言葉と活動が、身近になって半世紀以上。今やデザインはその領域を大きく広げています。本展は、戦後日本のデザインを追いながら、同時代のアートとの関係に注目し、デザインとアートの境界をみんなで旅します。



倉俣史朗(Miss Blanche(ミス・ブランチ))  
デザイン1988年、製作1989年 ©Kuramata  
Design Office 大阪中之島美術館蔵

OSAKA  
directory Supported by RICHARD MILLE

4 | 小谷くるみ | 2023年11月18日(土) - 12月17日(日)

5 | 肥後亮祐 | 2023年12月23日(土) - 2024年1月21日(日)

6 | 木原結花 | 2024年1月27日(土) - 2月25日(日)

大阪中之島美術館が関西・大阪21世紀協会と主催する、関西ゆかりの若手アーティストを個展形式で紹介するシリーズの展覧会です。

ラーニング・プログラム

大阪中之島美術館では美術とデザイン作品を楽しみ、想像力や創造力を高めるプログラムを、さまざまな専門機関と連携して実施していきます。\*詳しくは当館ホームページをご覧ください



## INFORMATION

ご利用案内

開場時間 — 10:00-17:00 \*展覧会場へのご入場は開場時間の30分前まで  
休館日 — 月曜日 \*祝日の場合は翌平日  
\*店舗営業日・時間は当館ホームページをご覧ください

観覧料 — 展覧会ごとに異なります

チケット — 当館チケットサイトにてご購入いただけます  
\*詳しくは当館ホームページをご覧ください

## ACCESS

アクセス



### ■電車

- 京阪中之島線渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分
- Osaka Metro 四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分
- JR 大阪環状線福島駅 / 東西線新福島駅(2番出口)より徒歩約10分
- 阪神福島駅より徒歩約10分

### ■バス

- 大阪シティバス JR 大阪駅前より  
53号・75号系統で「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約2分

### ■車 | 自転車

- 駐車場72台(有料・時間貸)
- 駐輪場130台(うち原付7台)

大阪中之島美術館

530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

TEL: 06-6479-0550 WEB: <https://nakka-art.jp>

Twitter Facebook Instagram YouTube @nakkaart2022



令和五年度 文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

# EXHIBITION SCHEDULE 2023.4- 2024.3 展覧会 スケジュール

NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA



# 民藝 MINGEI

No.3

— 美は暮らしのなかにある

2023年7月8日(土)–9月18日(月・祝) 会場 | 4階展示室

民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らしで用いられてきた美しい民藝の品々約130件を展示します。現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころです。



駒散し文様羽織 江戸時代 19世紀 日本民藝館蔵

# Parallel Lives 平行人生

No.4

— 新宮晋+レンゾ・ピアノ展

2023年7月13日(木)–9月14日(木) 会場 | 5階展示室

日本とイタリアの芸術家、新宮晋とレンゾ・ピアノの二人の人生を平行する展覧会で。二人の世界規模のダイナミックな歩みをたどりながら、現在進行形の創作活動とその世界観をご紹介します。映像と会場構成でスタジオ・アuzziー口が加わります。



新宮晋とレンゾ・ピアノ 2022年 ジェノヴァ RPBWにて 撮影:石田俊二

# 特別展 生誕270年 長沢芦雪

No.5

2023年10月7日(土)–12月3日(日) 会場 | 4階展示室

「奇想の画家」のひとり長沢芦雪の初期から晩年までを網羅する大阪初の回顧展。代表作の《龍・虎図襖》(重要文化財)など大胆で斬新な大画面作品から愛らしい作品等、芦雪の幅広い画業に迫ります。



長沢芦雪 《虎図襖》(重要文化財)(部分) 1786年(天明6) 無量寺・串本応挙芦雪館蔵

# テート美術館展 光

No.6

— ターナー、印象派から現代へ

2023年10月26日(木)–2024年1月14日(日) 会場 | 5階展示室

英国のテート美術館のコレクションより「光」をテーマに作品を厳選し、19世紀末から現代までのアーティストたちの独創的な創作の軌跡に注目します。異なる時代、地域で制作された約120点の作品を一堂に会し、光をめぐる表現の深淵なる世界を考察します。



(左から)ジョン・コンスタブル《ハリッジ灯台》1820年出品? Photo: Tate | ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー《光と色彩(ゲートの理論)―大洪水の翌朝―創世記を書くモーセ》1843年出品 Photo: Tate | すべてテート美術館蔵

# 決定版! 女性画家たちの大阪

No.7

2023年12月23日(土)–2024年2月25日(日)

会場 | 4階展示室

大正元年(1912)に島成園が文展に入選し、その成功に触発された木谷千種や生田花朝などの女性日本画家の活躍は、近代大阪の美術において重要な特色のひとつです。本展では大阪の文化的土壌に触れながら、全国的にも注目を集めた彼女たちの作品と活動の軌跡をご紹介します。



島成園《無題》1918年 大阪市立美術館蔵

# モネ 連作の情景

No.8

2024年2月10日(土)–5月6日(月・休)

会場 | 5階展示室

印象派の巨匠、クロード・モネ(1840-1926)は自在に変化する風景の「瞬間性」をとらえようと探求を続けました。水辺の景色などが刻々と変化する情景を描き、連作という発想により絵画の新しいあり方を提示したモネのさまざまな作品をご紹介します。



(左から)《ウォータールー橋、ロンドン、日没》1904年 ワシントン・ナショナル・ギャラリー蔵 National Gallery of Art, Washington, Collection of Mr. and Mrs. Paul Mellon, 1983.1.28 (マンヌボルト(エトルタ))1883年 メトロポリタン美術館蔵、ニューヨーク © The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY. Bequest of William Church Osborn すべてクロード・モネ

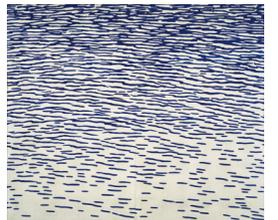
# 没後50年 福田平八郎展

No.9

2024年3月9日(土)–5月6日(月・休)

会場 | 4階展示室

豊かな色彩と奇抜な画面構成による独特の装色表現で知られる日本画家・福田平八郎の回顧展。伝統を継承しながら新しい日本画の可能性を切り拓いた福田の画業を《漣》を含む数々の代表作によりご紹介します。



福田平八郎《漣》(重要文化財)1932年 大阪中之島美術館蔵

